

大阪体育学会第53回大会 シンポジウム

なでしこ Vision ～女子サッカーの発展について～

Nadeshiko Vision

－ Development of Women's Football in future －

上田 栄治*

Eiji Ueda

齋藤 それでは、次のシンポジストのご紹介をしたいと思います。続きまして、最もオリンピックのチームゲームでメダルに近い種目だと思われる女子のサッカーについて、日本サッカー協会理事の上田栄治先生にご登壇いただきます。

先日程行われていた、女子サッカーの代表の試合にもいっしょに行かれております。今の佐々木監督の前の前の女子サッカーの監督を務められていました。強化にずっと携わっているということです。ご本人の競技歴をお聞きしますと、フジタ工業クラブサッカー部でプレーをしていたということで、選手であり、コーチであり、協会の女子の先頭に立っております。それでは、上田先生よろしく願いいたします。

上田 皆さん、こんにちは。日本サッカー協会の上田です。今回は女子サッカーのご紹介をする機会をいただきまして、ありがとうございます。スライドに「なでしこ vision」とありますが(図1)、女子サッカーの夢 vision というのを我々2006年から2007年にかけて作りました。これについては、また後で説明させていただきます。

北京オリンピックではベスト4を目指して、ベスト4に終わったわけですが、これが世界

Japan Football Association



なでしこ vision

図1

一を目指すきっかけになったと思っています。北京オリンピックでベスト4に残ったのは、ドイツ、ブラジル、アメリカ、日本だったのですが、日本以外は全て優勝を目指していましたが、日本だけがベスト4を目指して、そして、ベスト4で終わったという大会です。そのため、ベスト4になったところで達成感が出てしまって、次に勝てなかったと考えています。2008年からは、佐々木監督がなでしこジャパンの監督になりました。チームコンセプトは「攻守にアクションするサッカー」で、意図的にボールを奪い、意図的にチャンスを作ることです。北京オリンピックが終わったところで、佐々木監督も選手たちと話した中で、やはり、ベスト4を目標にしていれば、ベスト4

* 日本サッカー協会

で達成感が出てしまう。これからは世界一を目指そうということで、選手、スタッフ、我々とも確認したところであります。日本サッカー協会には、女子委員会というものがありますが、私は2006年に女子の委員長になったのですが、そのとき女子委員会で、2015年に向けて女子サッカーの夢 vision を作ろうということになりました。そして、その vision の名前を「なでしこ vision」と名付けました。我々の夢 vision というのは、「世界のなでしこになる。」ということです（図2）。なでしこと言って日本の女子サッカーだとか、あるいは、日本女子代表と認知されるようになりたいというのが我々の夢で、なでしこの名を世界に馳せるというのが我々の夢です。

この夢をかなえるために、大きな3つの目標を定めました（図3）。

1つ目は普及の目標で、「サッカーを日本女



図 2

日本女子サッカーの発展のために、
そして「JFAの理念、ビジョン、約束」を実現するために、
「世界のなでしこになる。」というビジョンのもと、
女子サッカーに関わるすべての人々が共有し、遂行する、3つの目標を定める。

1. サッカーを日本女性のメジャースポーツにする。
2. なでしこジャパンを世界のトップクラスにする。
3. 世界基準の「個」を育成する。

なでしこ vision

図 3

性のメジャースポーツにする」。

2番目は強化の目標で、「なでしこジャパンを世界のトップクラスにする」。

3つ目は育成の目標で、「世界基準の“個”を育成する」ということです。

普及の目標には3つのテーマがあって（図4）、2015年に女子のプレーヤーを30万人にするという目標を作りました。なぜ30万人かというのと、バレーボールやバスケットボールといった球技の競技人口が30～40万人あると言われているからです。それに肩を並べるようになりたいというのが我々の夢です。女子の普及で一番問題になるところは、中学生時代に選手数が減少することです。選手の登録人数は図5に示したとおりですが、白のところは男子と一緒にやっている女子の選手の数です。小学生のころは男子と一緒にやっているのですが、中学生年代になると成長の問題で男子

1. サッカーを日本女性のメジャースポーツにする。

- ◆ サッカーを気軽に楽しめ、
選手・指導者・審判など、生涯かわり続けられる環境をつくる。
- ◆ 少女・女性もするスポーツ、
そしてみんなから愛される・応援されるスポーツとして、
女子サッカーの認知度を上げる。
- ◆ 近い将来、FIFA女子ワールドカップを日本で開催する。



2015年、女子のプレーヤーを300,000人にする。

なでしこ vision

図 4

課題—中学生年代に選手数が減少

【現状】

- ◆ 女子は中学生年代に一番伸びる
- ◆ 中学生年代の活動の場が少ない

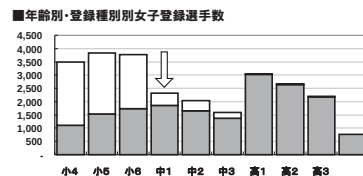


図 5

と一緒にできなくなるので、登録数が落ち込んでしまう。そして、高校では女子サッカー部があるので、また戻ってくる。こういった独特のカーブを描きます。できるだけ、その中学生年代の落ち込みを少なくしなければいけないと考えています。そういったところで、今全国で定期的に気軽に女子がサッカーをできるように、なでしこ広場というものを展開しています。これを多くしながら、定期的な活動から選手登録につなげていきたいと考えています。

強化の目標としては、「なでしこジャパンを世界のトップクラスにする」(図6)。U-20、20歳以下、U-17、17歳以下のワールドカップが2年ごとにありますが、ここに出場して1つでも多くの試合を経験してメダルを目指す。世界を経験させるということです。そして、ワールドカップ・オリンピックになでしこジャパンが出場して、メダルを獲得する。そして、今年6月にカナダでワールドカップがありますが、そのワールドカップで優勝するというのが我々の目標です。

3つ目は育成の目標です。「世界基準の“個”を育成する」ということです(図7)。なでしこジャパンにつながるタレントの発掘・育成のシステムの充実。それと、女子に携わる指導者のレベルアップを図ることです。タレント発掘・育成の取り組みの紹介ですが(図8)、右側は我々の年代別の代表チームになります。普及からナショナルトレセン。ナショナルト

レセンというのは、場所ではなくてシステムです。ナショナルトレセンというのは、市町村単位から県、地域、全国レベルまで、いい選手は徐々に選抜されていくというシステムで、年に1回、集まって合宿を行っています。13、14歳になりますと、エリートの活動として、選抜を作って韓国と交流をしたり、アジアサッカー連盟の大会に出たりしています。それと、「GKプロジェクト」とはゴールキーパーのコーチというのはなかなかいないので、いい選手には定期的に集まってもらって合宿を行うという取り組みです。それと、「JFA アカデミー」について現在の女子のアカデミーはアカデミー福島、アカデミー堺、そしてアカデミー今治と3つあるのですが、寄宿制で集めてやっています。そして、「なでしこチャレンジプロジェクト」というものは、今はなでしこジャパンに入る前の予備軍のプロジェクトで、

3. 世界基準の「個」を育成する。

- ◆ なでしこジャパンにつながる、タレントの発掘・育成システムを充実させる。
- ◆ 女子に携わる指導者のレベルアップを図る。

なでしこ vision

図7

2. なでしこジャパンを世界のトップクラスにする。

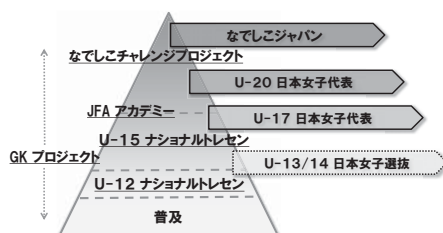
- ◆ U-20・U-17ワールドカップに出場。
ひとつでも多くの試合を経験し、メダルを目指す。
- ◆ ワールドカップ・オリンピックに出場し、メダルを獲得する。

↓
2015年、FIFA女子ワールドカップで優勝する。

なでしこ vision

図6

タレント発掘・育成



なでしこ vision

図8

なでしこジャパンと一緒に合宿をしながら選手たちを引き上げていこうという取り組みです。こういった取り組みと、そして、全国で行われているリーグや大会から、各年代の代表を編成しています。「U-17の日本女子代表」、そして、「U-20の日本女子代表」、そして、「なでしこジャパン」。これを編成しています。

図9は、2007年から2015年に向けた長期的なプランですが2007年と2011年にワールドカップが、2008年と2012年にはオリンピックがありました。そして、今度2015年にカナダでワールドカップが行われます。この図の縦軸は年齢です。16歳のところでは、AFCアジアの予選大会があります。そして、U-17、17歳になると、ワールドカップがあります。これは2年ごとに行われます。U-19、U-20。ユニバーシアードはこういう形で開催されます。我々は2015年の優勝を目標にして、15歳から16歳までのタレントの発掘・育成の取り組みから、17歳、20歳のワールドカップにつなげ、なでしこジャパンに選手たちをつなげて、2015年に優勝する。これが我々の長期的なプ

ランです。この考え方は、永遠に続いていくものだと思っています。2020年のオリンピックでも、こういう考え方でつなげていこうと考えています。

そして、強化ばかりじゃなくて、「なでしこ」らしい選手の育成を目指しています（図10）。「なでしこ」らしきとは、ひたむきで芯が強く、明るくて、礼儀正しい。これは日本女性の良さにつながるものだと思うのですが、これをサッカーで取り組んでいきたいと考えて

そして、「なでしこ」らしく。

「なでしこ」らしい選手

=日本の女子サッカー選手が目指す姿

「なでしこ」らしきとは・・・

- ◎ ひたむき ◎ 芯が強い
- ◎ 明るい ◎ 礼儀正しい

「なでしこ」らしい選手になろう。

「なでしこ」らしい選手を育てよう。

なでしこ vision

図10

長期的なプラン



図9

います。2011年のワールドカップで優勝しましたが、なでしこらしさをいかに発揮してくれたと思っています。ひたむきなプレーや諦めない芯の強さを表現してくれたと思っています。残念ながらロンドンオリンピックでは決勝で敗れましたが、この思いを2015年、今年のワールドカップにつなげていきたいと思っています。

最後になりますが、2008年から2012年まで

の映像を編集してありますので、これをご覧ください。

(映像放映)

どうも、ありがとうございました。

齋藤 上田先生、どうもありがとうございました。